

チェルノブイリ・フクシマ

京都の集い



福島第1原発3号機



勝俣恒久元会長

武藤栄元副社長
(元原子力・立地本部長)

武黒一郎元副社長
(元原子力・立地本部長)

福島原発刑事裁判・被告の3人

イラスト：人見やよい

2月18日(日) 午後2時～4時30分

講演 福島nowと東電刑事裁判

武藤類子さん (福島県三春町在住
福島原発告訴団団長)

講演 放射能汚染水問題と水産業

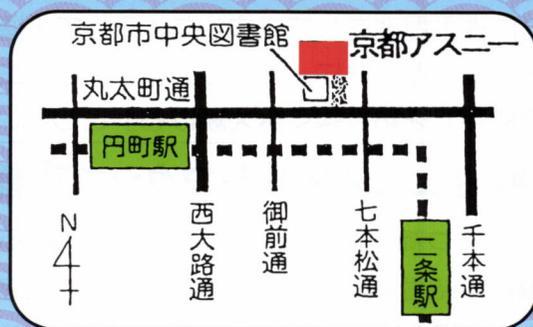
鷺尾圭司さん (沿岸漁業応援団)

訴え 原発賠償訴訟・京都原告団

京都アスニー

(中京区丸太町七本松西入北側
市バス・京都バス「丸太町七本松」下車
JR円町駅・東へ徒歩10分)

参加費 1,000円 (高校生以下無料)



主催 チェルノブイリ・フクシマ京都実行委員会

☎075-465-2451 (佐伯)

福島原発事故・原子力緊急事態宣言はだされたまま

福島原発事故から13年目を迎えようとしています。この一年の原発回帰の動きは「事故を教訓として、脱原発を皆で目指そうとしてきた」世論と大きくかけ離れるものとなりました。

しかし、原子力緊急事態宣言ははまだ発令中で、放射線量も事故前より高いままです。いまなお数万人にもものぼる人々が避難生活を続けています。

海は放射能の入った廃水の捨て場ではありません

政府と東京電力は福島原発事故により発生した放射能汚染水の海洋放出について「関係者の理解なしにいかなる処分もしない」と福島県漁連に2015年、約束しました。しかし「漁業者・国民の理解を得られない海洋放出に反対であることはいささかも変わらない」とする福島県漁連や全国漁協連合会を無視して、今後、数十年続く海洋放出が強行されています。すでに海水から微量の放射性水素（トリチウム）が検出されています。微量の積み重ねが災いにつながります。覆水盆に返らずです。海は放射能の入った廃水の捨て場ではありません。

全漁連、反対姿勢崩さず
全国漁業協同組合連合会（全漁連）の坂本雅信会長は22日、東京電力福島第一原発の処理水について「漁業者・国民の理解を得られない海洋放出に反対であることはいささかも変わらない」との声明を発表した。
京都新聞
2023年8月

原発事故の責任を誰もとっていない

勝俣恒久東京電力元会長ら3人の旧経営陣を被告とする東京電力刑事裁判は2023年1月、東京高裁が地裁の無罪判決を維持し、舞台が最高裁に移りました。9月検察官役の指定弁護士が上告趣意書を提出しました。

最高裁では口頭弁論を開かず結審、判決という事が多いです。口頭弁論を開かせることが高裁判決を破棄させる第一歩となります。

原発事故の責任を誰もとっていないことが、今の状況につながっていると思います。

2月18日（日）京都アスニー

福島原発告訴団・武藤類子さん&沿岸漁業応援団・鷺尾圭司さん



武藤類子さん

福島県三春町の森の中で自然とともに歩む喫茶店を営んでいた武藤類子さんは、原発事故による放射能汚染でその暮らしが出来なくなってしまいました。

そして事故の責任を問う福島原発告訴団の団長として、東電刑事裁判や福島の脱原発運動の先頭に立ってこられました。「フクシマのいまと東電刑事裁判」をお話ししていただきます。

また京都在住の水産研究者で沿岸漁業応援団の鷺尾圭司さんには「放射能汚染水問題と水産業」について水産関係者の立場から語っていただきます。

著書に「明石海峡魚景色」「ギョギョ図鑑」など。

ぜひ御参加下さい。



関西電力株主総会での京都市の「脱・原発依存」提案の継続を！

京都市は「脱・原発依存」市議会決議を受けて、2012年より毎年、門川大作市長が先頭に立って関西電力に株主提案をしてきました。そして「福島原発事故の教訓を決して風化させてはならず、今後とも、市民や事業者とともに、徹底した省エネと創エネ、イノベーションの創出に取り組み、関西電力に対し「脱・原発依存」を粘り強く訴え続ける」としています。

主催 チェルノブイリ・フクシマ京都実行委員会

☎075-465-2451（佐伯）

はんげんぱつ新聞京都支局／女性会議・京都／ふえみん婦人民主クラブ・京都／平和の会／京都平和フォーラム／きょうと教組／自治労京都府職員労働組合／社会民主党京都府連合／使い捨て時代を考える会／安全農産供給センター／原発賠償訴訟・京都原告団を支援する会／きょうとグリーンファンド／京都脱原発原告団／京都反原発めだかの学校／京都YWCA／日本チェルノブイリ連帯基金・京都／アジェンダ・プロジェクト京都／福島原発告訴団関西支部／堺町画廊